

# 令和8年度入学試験問題（前期日程）

## 国語

### 出題意図及び正答

#### 問題一

##### 出題意図

評論を素材として、論理展開や本文内容を正確に理解し、それぞれの問いに対して的確に解答することのできる資質・能力を有するかを問うている。

##### 正答

問一	略
問二	略
問三	イ
問四	略
問五	エ
問六	略

#### 問題二

##### 出題意図

小説を素材とし、文学的な表現技法や本文内容を正確に理解し、それぞれの問いに対して的確に解答することのできる資質・能力を有するかを問うている。

##### 正答

問一	エ
問二	略
問三	略
問四	略
問五	略
問六	略

### 問題三

#### 出題意図

古文を素材とし、古典文学の表現技法や本文内容を正確に理解し、それぞれの問いに対して的確に解答することのできる資質・能力を有するかを問うている。

#### 正答

問一	ア	
問二	(一)	エ
	(二)	略
問三	(一)	反語
	(二)	略
問四	(一)	已然形
	(二)	略

令和八年度入学試験問題

国語

注意事項

1. この問題用紙は試験開始の合図があるまで開かないこと。
2. 受験番号を解答用紙の指定されたところへ正しく記入すること。
3. 問題用紙と解答用紙は別になっている。解答は解答用紙の指定されたところに記入すること。それ以外の場所に記入された解答は、採点の対象にならない。
4. ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、監督者に申し出ること。
5. 問題用紙の余白等は適宜利用してよいが、破いたり切り離したりしないこと。
6. この問題用紙は持ち帰ること。

前期日程
国語
問題用紙10枚中 1枚目

令和八年度 信州大学教育学部入学者選抜試験

一次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(解答は所定の解答欄に記入すること。)

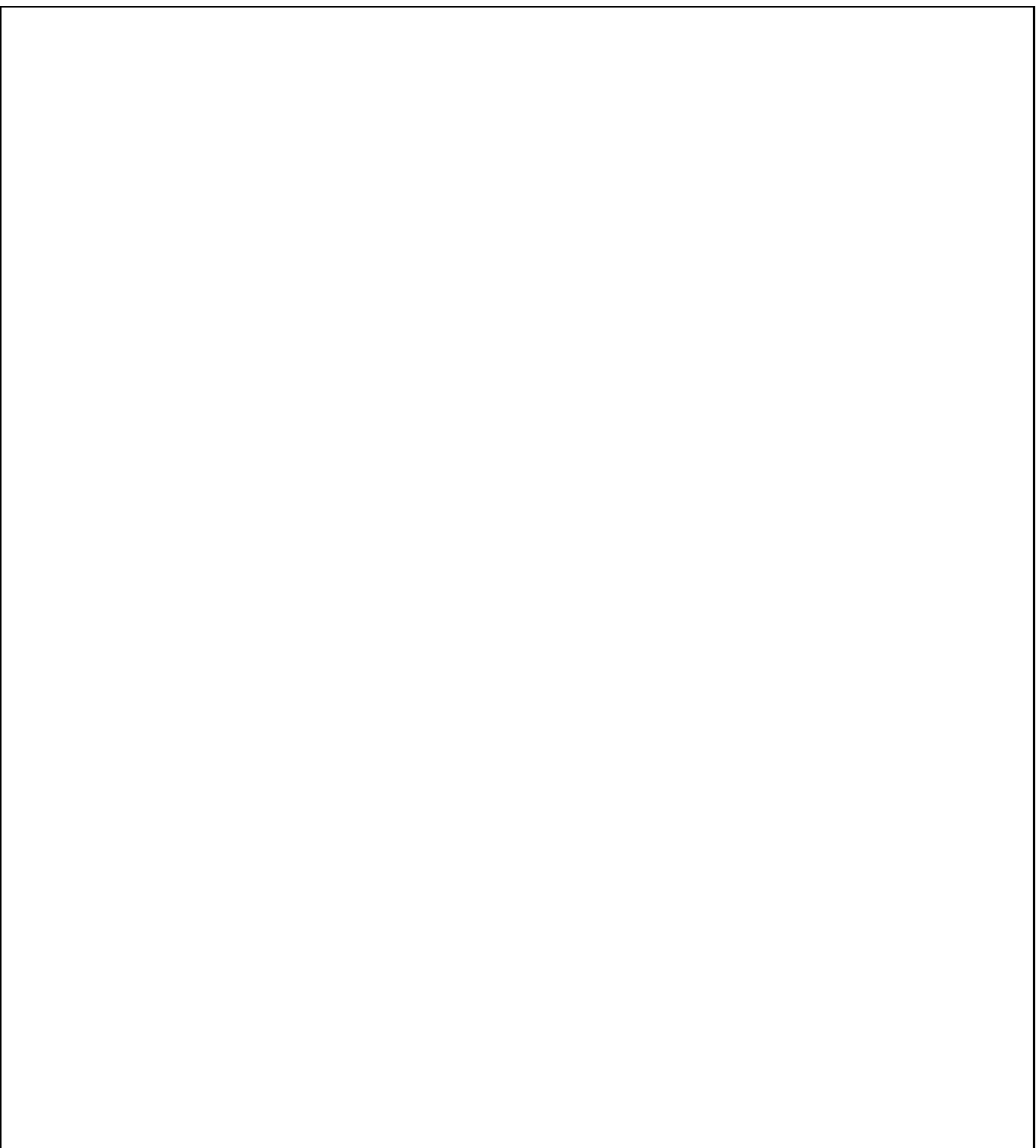
Blank area for the reading comprehension test.

前期日程

国語

問題用紙10枚中 2枚目

令和八年度 信州大学教育学部入学者選抜試験



(中島義道『不在の哲学』筑摩書房、二〇一六年、六六〜七〇頁。  
なお、本文は一部表記等を変更している。)

注

※不在：本文においては、「実在」(統一的・持続的・客観的世界。確固として存在するものであり、それ自体として存在するもの)の対立概念として用いられている。実在性を欠いていることが「不在」である。

令和八年度 信州大学教育学部入学者選抜試験

問一 傍線部①「

「とあるが、そのように言えるのはなぜか。」「構造」という語を用いながら、簡潔に説明しなさい。

問二 傍線部②「

「とあるが、そのように言えるのはなぜか。この傍線部が含まれる段落の内容を踏まえて簡潔に説明しなさい。

問三 Aに入る言葉として適切なものを次のア～エの中から一つ選びなさい。

- ア 排他性    イ 多元性    ウ 規範性    エ 同一性

問四 傍線部③「

とあるが、「私」との対比によって明らかになる「カメラ」の特性について、本文の内容を踏まえて簡潔に説明しなさい。

問五 傍線部④「

「とあるが、この傍線部が含まれる段落の内容として適切なものを次のア～エの中から一つ選びなさい。  
ア 大脳内に記憶物質が保存されているならば、過去の出来事は想起できる。  
イ 過去の出来事を想起できるならば、大脳内の記憶物質は消失してもよい。  
ウ 大脳内に記憶物質が保存されているならば、過去の出来事は永久保存される。  
エ 過去の出来事を想起できるならば、大脳内に記憶物質は保存されている。

問六 傍線部⑤「

「とあるが、我々は物事を「知覚」するたびにそこに「という筆者の思索が、あなたの生活の中で活用できるときがあるとすればどのようなときか。あなたにとって身近な事例を挙げながら、その事例において筆者の思索がどのように活きているのか述べなさい。

前期日程

国語

問題用紙10枚中 4枚目

令和八年度 信州大学教育学部入学者選抜試験

二 次の文章は一九一九年に発表された芥川龍之介「毛利先生」の一部分であり、「自分」は「中学」の頃に教えを受けた「毛利先生」について回想している。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(解答は所定の解答欄に記入すること。)

--

前期日程

国語

問題用紙10枚中 5枚目

令和八年度 信州大学教育学部入学者選抜試験

前期日程
国語
問題用紙10枚中 6枚目

令和八年度 信州大学教育学部入学者選抜試験

(芥川龍之介「毛利先生」『蜘蛛の糸・地獄変』角川書店、一九八九年、一五九～一六三頁。  
なお、本文は一部表記等を変更している。)

注

- ※府立中学…旧制中学校である東京府（現在の東京都）立中学校。男子校。三年級の標準年齢は一四から一五歳。
- ※物故して…亡くなって。
- ※歴々と…明らかに。
- ※モオニング・コウト…男性用礼服の一つ。
- ※折襟…外側に折り返すように仕立てた襟。
- ※さしずめ…さしあたって。当面。
- ※チョイス・リイダア…当時使われていた英語の教科書。
- ※ロビンソン・クルウソオ…デフォアの長編小説。船乗りが難破して無人島に漂着し、工夫して生活する物語。
- ※低徊した…考えをめぐらした。
- ※狼狽して…あわてふためいて。
- ※刻薄な…残酷で薄情な。
- ※一再でない…一度ではない。何度も。
- ※惨憺たる…見ていられないほど、ひどい様子。

前期日程

国語

問題用紙10枚中 7枚目

令和八年度 信州大学教育学部入学者選抜試験

問一 傍線部①

「とあるが、ここで用いられている修辞法として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 擬態法    イ 擬人法    ウ 隠喩    エ 直喩

問二 傍線部②

「とあるが、「生徒たち」は「諸君」と「金切声」で呼びかけられたあと、「  
「毛利先生」のことをどのように感じて

いるか。本文の内容を踏まえて説明しなさい。

問三 傍線部③

「とあり、「毛利先生」は「生徒たち」に反応しつつ話している。「毛利先生」がこのような話方をする理由を、「生徒たち」はどのように捉えているか。本文の内容を踏まえて説明しなさい。

問四 傍線部④

「とあるが、ここで「自分」は「毛利先生」のどのような様子を「勇敢に」と言い表しているか。本文の内容を踏まえて説明しなさい。

問五 波線部(a)～(c)は記号「――」である。これらの記号「――」にはすべて同じ表現効果があるが、それはどのような表現効果か。記号「――」の前後の内容に触れつつ説明しなさい。

問六 二重傍線部「――」

「とあるが、「自分」は「――」の「自分」の振る舞いをどのように評価しているか。本文から一箇所以上引用しつつ説明しなさい。引用部分には「――」(カギ括弧)を付けること。

前期日程

国語

問題用紙10枚中 8枚目

令和八年度 信州大学教育学部入学者選抜試験

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(解答は所定の解答欄に記入すること。)

『徒然草』第五十九段より、佐竹昭広・久保田淳 校注『新 日本古典文学大系39 方丈記 徒然草』  
岩波書店、一九八九年、一三七～一三八頁。なお、本文は一部表記等を変更している。

注

※大事…仏教語「一大事」の略で、出家して悟りを開くこと。

※沙汰し置きて…始末をしておいて。

※したためまうけて…処置し準備して。

## 令和八年度 信州大学教育学部入学者選抜試験

問一 傍線部①

「傍線部②」

「について、

「あらじ」「あるべからず」から読み取れる、文脈表現上の含意や筆者のねらいの説明として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「あらじ」は、行動を先延ばしにする者が時間的猶予はあるだろうと考える自己都合的な推量を示す。一方「あるべからず」は、決断の日が来ないと、筆者が行動しない人々へ強く警鐘を鳴らし批判する意図を断定的に表す。

イ 「あらじ」は、客観的な状況判断として、行動の準備時間が不足するだろうという推量を示す。一方「あるべからず」は、行動を怠った結果として許されない未来が生じると、筆者が道徳的・倫理的に戒める意図を断定的に表す。

ウ 「あらじ」は、日々の雑事や心の迷いなどの行動上の制約や困難、それによる消極的意志を推量的に示す。一方「あるべからず」は、重要な行動機会が永遠に訪れないという、筆者の極めて悲観的な見通しを断定的に表す。

エ 「あらじ」は、他者が時間を無駄にしないだろうという推測を交え、それとなく行動を促す助言を推量的に示す。一方「あるべからず」は、筆者自身が過去に機会を逸したことへの、強い後悔の念を断定的に表す。

問二 A段落の筆者の主張について、以下の設問に答えなさい。

(一) 「少し」とあることに筆者のどのような考えが表れていると言えるか、最も適切なものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 悟りへ向かう心を少しずつ積み重ねることが修行の正しい姿であるという考え。

イ 悟りへ向かう心が少しでも芽生えれば、やがて実行へつながるとい希望についての考え。

ウ 悟りへ向かう心を持つ者が実はかなり少数であるという現実の稀少きしょうさについての考え。

エ 悟りへ向かう心が中途半端に留まるため、結局は実行に至らない人間の欠点についての考え。

オ 悟りへ向かう心を持つ者に対して、常に高い基準が課されるといふ厳しさについての考え。

(二) (一)のような考えを伝えるために、A段落第一文「

」ではどのよう

に主張がされているか。また、同じ段落の第二文以降でどのように示されているか。A段落での筆者の述べ方について、「第一文」「第二文以降」の語を用いつつ、分かりやすく説明しなさい。

前期日程

国語

問題用紙10枚中 10枚目

令和八年度 信州大学教育学部入学者選抜試験

問三 傍線部③

「 について、以下の設問に答えなさい。

(一) 双方の文中にある助詞「や」について、ここでの具体的な文法的意味を漢字二字で答えなさい。

「 傍線部④」

(二) B段落において、③と④の表現がそれぞれ段落の冒頭と文末とに置かれることで、筆者のB段落での主張・表現にどのような効果を加えているか。(一)の文法的な効果にも触れつつ、簡潔に述べなさい。

問四 二重傍線部「こそ」について、以下の設問に答えなさい。

(一) 文中に「こそ」が用いられた場合、文法的にそれを受けて結びとなる活用語の活用形は何か。漢字で答えなさい。

(二) 二重傍線部「こそ」は、文法的な意味として順接と逆接の両方に解釈されうる。あなたは、この「こそ」について、順接と逆接のどちらとして解釈するか。次の現代語訳を参考にして、解答欄の「順接」「逆接」どちらかを選び、○で囲みなさい。その上で、選んだ解釈から、この段全体で筆者の主張する「」の考え方とどのように繋がるか。あなたの考えを述べなさい。

【現代語訳】

(順接の場合) …「何年もこのようであったのだ」

(逆接の場合) …「何年もこのようであったとしても」